

Doctor & Patient Communication

テーマ

服薬を拒否する 統合失調症の患者さん に対する効果的な解決策

公益財団法人慈圭会 慈圭病院院長

武田 俊彦

外来で服薬治療をやめたいと申し出る 統合失調症の男性の場合

Aさんは30歳男性で、両親と3人で生活しています。23歳時に幻覚妄想状態で発症して、精神科病院に2ヵ月入院した後、服薬の自己中断による再発で1回再入院しました。それ以後はほぼ定期的に外来通院しています。最近、一般企業に就職しましたが、物覚えが悪く、人間関係もぎこちないため、数週間から数ヵ月で仕事を辞めることを繰り返しています。2ヵ月前に失業し、その後なかなか就職できない状態が続いている状況での、月1回の診察場面です。

対話例

先生、そろそろ薬をやめようかと思うのです。実は、先生に黙って3ヵ月ほど朝の薬をやめていました。でも、なんともないです。



Aさん



医師

ご自分なりにいろいろ試してみたのですね。今回の減薬は、成功だった感じなのです。

そうです。
減らして、かえってスッキリした感じです。



なるほど、そうでしたか。確かに、薬にはメリットもデメリットもありますね。今までに薬を服用してきて、役に立ったと思うところがありましたか。

昔はいろいろストレスがあっ、寝られなかったり、混乱したりして、その時には薬を飲んで落ち着いたように思います。先生は、再発予防に服薬が必要といわれますが、実感はないです。



抗精神病薬は、いろいろな精神的なストレスを乗り越える力を高めます。今もその点では役に立っていると思いますよ。今後も、仕事などでチャレンジしていく場合には、とても役に立つと思います。今日は、朝の薬は処方しないでおきます。処方薬に関して、今後も飲みやすくなるよう一緒に工夫していきましょう。



はい……。
両親も歳をとってきて、僕が仕事を辞めてばかりなので怒るし、このままじゃダメなんです。



いろいろ心配なのですね。私は、Aさんが何かすごく焦っているようで心配です。私たちはいつでもあなたを応援しています。この病気に関しては医学的治療以外にも、経済的にも生活面でもいろいろ支援ができるので、ご両親を交えて近々相談しましょう。